

■きょうから平常授業



新型コロナウイルス感染防止をめぐる国の「緊急事態宣言」発令に伴い、4月21日(火)から臨時休業となりましたが、本校では5月11日(月)以降、学年単位で登校日を設け、5月14日(木)からはオンライン授業を開始しました。さらに、5月18日(月)からは分散登校でも授業を行うなど、コロナウイルスの感染予防に配慮しつつ、少しでも、みなさんの学力向上につながるよう、先生方も努力してきました。特にオンライン授業は生徒諸君にとっても初めての経験だったことと思いますが、十分に活用できたでしょうか？

さて、いよいよ、きょうから授業が再開となります。学校行事等も当初の予定と大幅に変わっていくこととなりますが、少しでも充実した学校生活になるよう、1日1日を大切にしていってほしいものです。

■昨年度卒業生の合格体験記

昨年度卒業生の合格体験記です。今回はいずれも特進コースの卒業生で、国立大学に進学した2名および私立大学薬学部に進学した1名に記してもらいました。ぜひ参考にしてください。



遠藤環さん(特進コース) 茨城大学工学部

【合格体験記】

私が大学受験を経験して思ったことが2つあります。1つ目は、「計画的にもっとたくさん勉強しておけば良かった」です。私は計画的にコツコツと勉強していなかったため、センター試験で良い点数を取れませんでした。



また、試験が近くなると、「あれもやらなきゃ!これもやらなきゃ!」となるので、絶対に計画は立てた方が良いです。2つ目は、「推薦やAO入試など受けることができ、少しでも希望があるなら、受験してみる」です。私は、茨城大学のAO入試を受験しました。AO入試では、口頭試問、ポスターの制作・発表、面接、センター試験が課されました。ポスターや面接はとても大変でした。センター試験が課されてはいましたが、配点が少なく、センター試験で失敗し、一般試験では合格できる希望が無い私でも合格することができました。入学したら間違いなくビリの方だと思いますが、合格は合格です。自分の可能性を信じて、チャンスがあったら、ぜひ受験してみてください。

最後に、先生方は生徒の味方です。わからないことや悩んでいることがあれば、先生方に相談してください。

鈴木若葉さん（特進コース） 福島大学共生システム理工学類

【合格体験記】

私は体操競技部に所属していたので放課後の課外に出席できない分、毎朝7時に登校し自習していました。3年の8月に行われたインターハイを最後に部活動を引退し、受験に切り替えました。やれるだけのことはやって挑んだセンター試験でしたが、本番は極度の緊張で過去最低点。絶望でした。でも先生方に励まされ、気持ちを切り替えてすぐに二次試験対策を始めました。数日後に帰ってきたセンターリサーチでは、やはりD判定とE判定でした。二次試験までは約1ヶ月しかないので落ち込んでいる暇はありませんでした。「人事を尽くして天命を待つ」。後悔しないために今できることに全力を注ごうと決心しました。二次試験当日は、「私は誰よりも多く問題を解いてきた」と自分に言い聞かせ、自信を持って試験に臨むことができました。



合格するまではとても長い道のりです。どれだけ努力を重ねても思い通りにいかないこともあります。不安で眠れない夜もあります。そんな時に強い志を持って自分自身を信じ、続けられるか否かで結果は変わってくると思います。毎日の積み重ねが本番の自信につながります。皆さんもどんな時も目標を見失わず、「今」を大切に過ごして下さい。

齋藤麻由美さん（特進コース） 東北医科薬科大学薬学部薬学科

【合格体験記】

私は東北医科薬科大学薬学部薬学科に合格しました。公募制推薦入試に出席し、試験科目は化学、英語、面接でした。筆記試験は大学のオープンキャンパスで過去4年分の推薦・一般入試の過去問を頂くことができ、試験の傾向や時間配分を研究しました。化学は自分のできない範囲を重点的に勉強し、英語は文法や長文に慣れるための勉強をしました。試験直前は過去問だけを解き、できない所を埋め合わせ、当日はギリギリまで参考書を見て、できる限り多くの知識を頭に詰めこみ試験に臨みました。化学は今までの過去問よりは易しかったです。英語は今までと出題形式が少し違いました。また、私の苦手な所が多く出題され焦りと不安があり、結果は油断できませんでした。そして、私は家族や先生方などの協力、助けがあり、無事、受験を乗り越えることができました。



合格後は大学からの課題やレポートが出され、履修していない物理基礎の勉強に少しずつ取り組み、それに加え、化学、生物、数学も大学の勉強での基礎となるので勉強を続けました。大学入学後も勉強は大変になると思いますが、今回の受験の経験を生かし、将来の夢に向かってこれからもがんばります。

■ 3年生の進路ガイダンスについて



3年生諸君は、進路について非常に気になっていることと思います。「入学試験はどのように実施されるのか?」「入社試験は普通に実施されるのか?」など、それぞれに不安は尽きないことでしょう。下記の日本学生支援機構の予約採用のことなども含めまして、進路指導係では、6月4日(木)の2校時に体育館で3年1組から3年4組を対象に、同日の6校時に剣道場で3年6組と3年7組を対象にそれぞれ「進路ガイダンス」を実施します。3年5組については、6月初旬の平日の昼休みに説明会を持つ予定です。不明なことがあれば、いつでも進路指導室に足を運んで質問しに来てください。ただし、混み合うことも考えられますので、余裕を持って質問や相談をしに来るよう心がけましょう。

■ 日本学生支援機構・予約採用の申込みについて

日本学生支援機構の予約採用申込みについて、6月4日(木)の「進路ガイダンス」で概略を説明し、その後、関係書類の配付を含めて別途説明会を持つ(※6月4日のガイダンスでお知らせします)予定です。申込みに必要な関係書類は部数に限りがありますので、確実に申し込む生徒に対して優先的に配付する考えでおります(※最終的に申し込まないという場合には、関係書類を必ずそのまま全て返却してください)。なお、寮生については、別途寮生のみを対象にした説明会を開き、場合によっては個別相談に応じたいと存じます。

予約採用の申込みをされる場合には、書類等の提出期限を厳守していただきますよう、お願いいたします。配付書類で日程等をよくご確認ください。

■ 3年生の進路希望状況



臨時休業前の4月20日(月)に3年生の進路希望アンケートを実施しました。今年度の3年生は166名いますが、女子1名がアンケート未実施のため、以下の表は165名分の回答をまとめたものになります。今年度は新型コロナウイルスの問題により、入学試験や入社試験がどのような形になるのか極めて不透明な状況ですが、希望進路実現に向けて、しっかりと基礎学力を身につけていってほしいと思います。

現時点でのあなたの進路希望は?	希望者数
4年制大学進学	95名
短期大学進学	9名
専門学校進学	41名
就職	18名
その他	2名

■ 新型コロナウイルスの脅威



新型コロナウイルス感染が拡大し、世の中が混乱する中で、志村けんさんの急逝のニュースは大きな衝撃でした。皮肉にも、そのニュースが全国に流れて、コロナウイルスの怖さが日本中で大きく認識されていった印象がありますし、実際、そういうアンケート調査結果も新聞で公表されていました。志村さんのコロナウイルス感染の報道があった際には、日本を代表するコメディアンであり、きつと「だいじょうぶだあ」と言って、元気にカムバックするものだとばかり思っていたのですが、実際はかなり厳しかったようです。現在、NHKで放送されている連続テレビ小説（通称：朝ドラ）『エール』の撮影途中でコロナウイルスに感染し、入院後程なくして帰らぬ人となってしまいました。童謡「赤とんぼ」などの作曲を手掛けた山田耕筰をモデルとする音楽家・小山田耕三という重要な役どころでしたが、残念ながら、これが遺作となってしまいました。心からご冥福をお祈りしたいと思います。

ちなみに、志村さんが亡くなられた後に、先に記した「だいじょうぶだあ」の由来が報じられました。志村さんのお兄さんの奥様が喜多方市の出身で、志村さんが喜多方の実家に伺った際、義姉のご両親から「あがっせ、食わっせ、だいじょうぶだあ」と言われたことが面白かったらしく、自分のギャグにしてしまったようです。筆者は喜多方市の生まれですが、志村さんの遠縁が喜多方市にいたことをこの訃報の後、初めて知りました。この義姉のご両親の会津弁でのやり取りは、筆者も耳慣れたもので目に浮かびます。なお、「あがっせ」というのは、「家にお上がりください」という意味になるかと思います。

実はこの「新型コロナウイルスの脅威」に関する記事を筆者が最初に書いたのは4月の下旬ごろでした。正直なところ、上に記した志村さんの記事の後、別の内容で話を続け記事をまとめるつもりでおりましたが、4月23日（木）に女優の岡江久美子さんがコロナウイルスで亡くなったという報道を受け、差し替えさせていただきました。筆者は最初、ネットニュースのタイトルで「岡江久美子さん死去」の表記を見て、「えっ！ どういうこと？」と理解するのに時間がかかりました。岡江さんが亡くなられた後に報道番組や情報番組で親交のあった方たちが話していたように、「岡江さんがコロナウイルスに感染して入院している」という報道が全くなく、明るく元気なイメージが強かったことから、あまりに突然のことで何が何だか分からなく、なかなか受け止めることができない状態でした。



岡江さんといえば、筆者世代（40代後半）ではまず、旦那さんの大和田獏さんと出会うきっかけとなったというNHKのクイズ番組『連想ゲーム』に出演されていた印象があります。さらに、1990年代にシリーズ化されたTBS系の昼ドラマ「花王・愛の劇場」の枠で放送された『天までとどけ』で13人の子どもの母親役を温かく演じたイメージと1996年から2014年まで17年半やはりTBS系の「朝の顔」として『はなまるマーケット』の総合司会を薬丸裕英さんとともに快活に進めていたイメージが強いです。特に『はなまるマーケット』でのテンポの良い相方とのトークや、少しくらいのミスも気にせず、笑顔で進行する様子に親しみを覚え、元気をもらったというファンは多いことと思います。享年63とまだお若く、小さなお孫さんの成長も見守っていきただけかっただろうと、ご本人やご遺族の無念を思うにつけ胸が締めつけられます。このコロナウイルス感染の問題が少しでも早く完全に終息することで、ごく普通の日常を取り戻したいですね。このように言って良いのか分かりませんが、本校でもオンライン授業など、これまでにない経験をしたことで、難題が降りかかったときにどのようにして乗り越えていったらいいかを学ぶ良い機会になりました。こういった非常時に、私たち一人ひとりがいかに高い意識を持ち、協力し合っていくことが大切かを問われたような気がしてなりません。

文責：清水聖（進路指導主事）